

## 2015年度 本州太平洋におけるサケ回帰状況 (第3報：11月30日現在)

国立研究開発法人水産総合研究センター  
東北水産研究所 沿岸漁業資源研究センター

- ・ 11月30日現在までの本州太平洋側の地域全体のサケ来遊数は前年および平年を下回る
- ・ 4年魚（2011年級）の河川捕獲数について、震災前と比べて、放流数が減少していても順調に捕獲している河川がある一方、放流数が減少していないのに捕獲数が低調である河川があり、2011年級の放流数の増減と捕獲数に関連性が見られない河川が散見される。
- ・ 震災年に放流された5年魚（2010年級）の河川捕獲数は、昨年度、4年魚の減少が顕著だった河川において減少が顕著

### 1. サケ来遊概況

11月30日現在の本州太平洋側（竜飛岬から東の青森県～茨城県）におけるサケ来遊数（沿岸漁獲数と河川捕獲数の合計）の累計値は460万尾<sup>※1</sup>（前年同期：74%）と前年を下回り、平年同期（1989～2014年の平均値、1027万尾）との比較では45%という状況です（図1）。

河川捕獲数の累計値は41万尾（前年同期：87%）と前年を下回り、平年同期（86万尾）との比較では47%となっています。県別の河川捕獲数では、青森太平洋、岩手県、宮城県、茨城県において、前年比がそれぞれ139%、81%、70%、99%となっており、岩手県および宮城県において河川捕獲数の低調により、種卵確保が厳しい状況となっています。岩手県では、中期（11/11現在）の採卵計画達成率が87%となり90%を下回ったことをうけて、緊急種卵確保対策の海産親魚使用が発動され（12月17日解除）、各ふ化場における懸命な種卵確保努力が続けられています。宮城県においても追波川水系および志津川湾水系さけます増殖協会における種卵確保のための網揚げ等が実施され、種卵確保のための自助努力が図られました。

※1：青森県（太平洋）、岩手県、宮城県の河川捕獲数および沿岸漁獲数（11月30日現在）、茨城県河川捕獲数（11月20日現在）の累計値

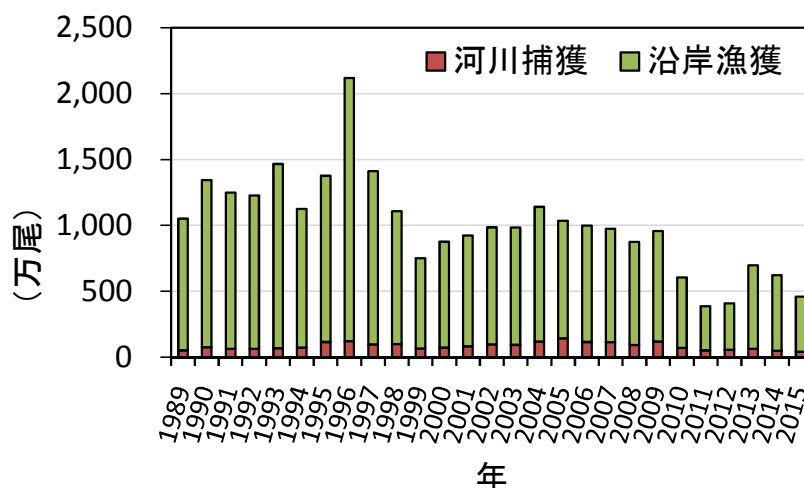


図1 8月1日～11月30日までの本州太平洋側におけるサケ来遊数（累計値）の経年変化

## 2. 年齢別河川捕獲数と4年魚および5年魚の河川捕獲状況

現在までに年齢査定を終了している河川について、年齢別の河川捕獲数、主群となる4年魚および震災年に放流された5年魚の河川捕獲状況をお知らせします。

※枠内：第1、2報と同文

なお、本年度、年齢調査結果のお知らせを予定している河川および各河川におけるサケふ化場の被災状況を図2に示します。調査河川の中では、岩手県の安家川、田老川、津軽石川、片岸川、盛川のサケふ化場において、津波被害が甚大であったため、回帰動向が特に注目されます。



図2 2015年度 年齢調査河川（左図）および各河川におけるふ化場の被災状況（右表）

#### ・4年魚（2011年級）の河川捕獲状況

図3に11月30日現在の4年魚の累計河川捕獲数、および放流数の回復状況を表すため、2011年級の放流数と2009年級の放流数（震災前の放流数として）との比率を示しました。2011年級は2012年春に、2009年級は2010年春に放流された群となります。4年魚の累計河川捕獲数は、青森県の川内川、岩手県の津軽石川、織笠川において、過去10年間で最も少なくなっています。放流数の少なかった岩手県の田老川、片岸川、盛川では、水準としては高くないものの、顕著な減少は認められていません。一方で、放流数が震災前の水準に回復した津軽石川や放流数が増加した織笠川では顕著に少なくなっています。放流数の増減と捕獲数に関連性が見られない河川が散見されます。

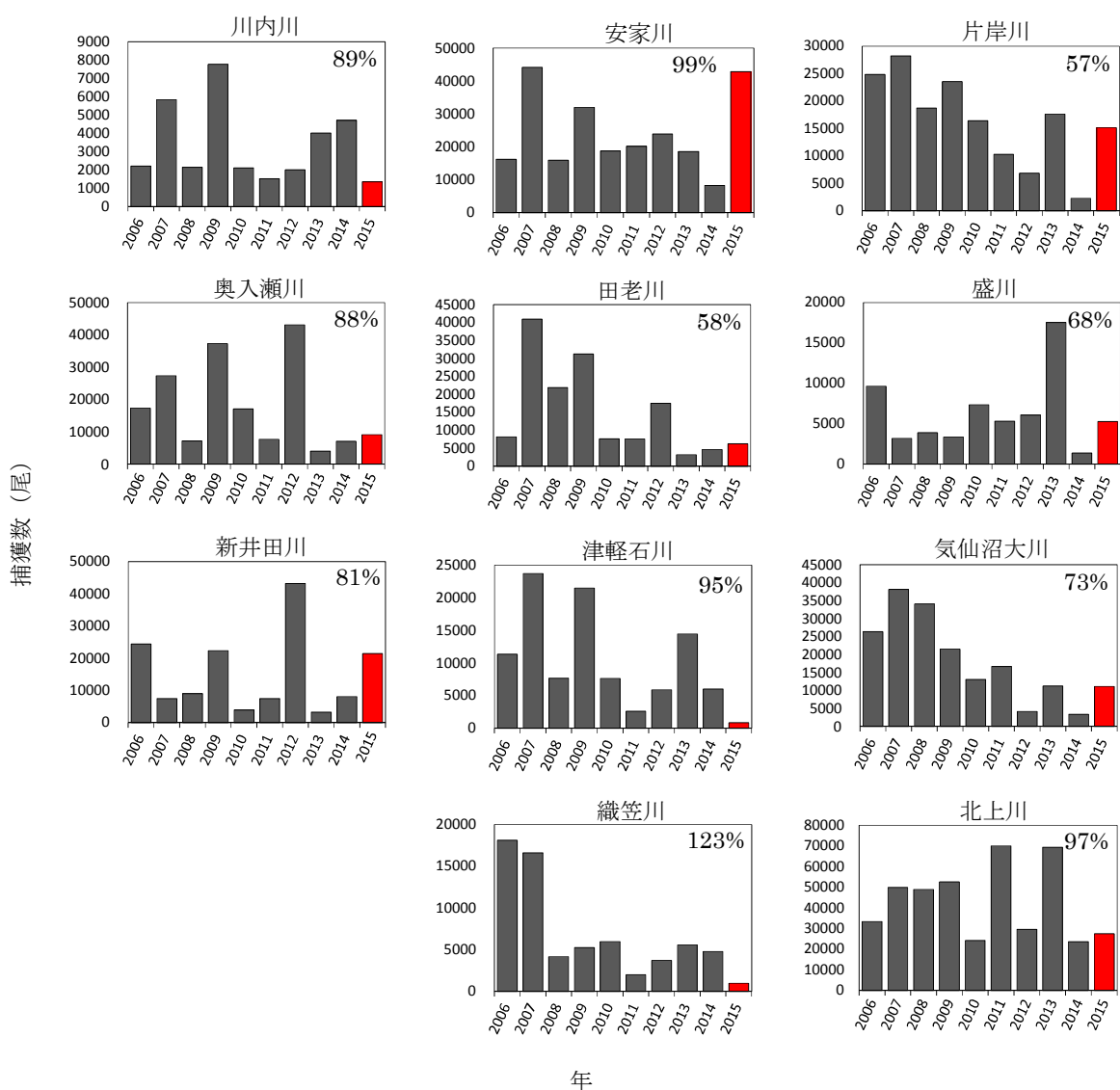


図3 4年魚の河川捕獲数の経年変化。図中の割合は「2011年級放流数／2009年級放流数×100」を示す。

## ・5年魚（2010年級）の河川捕獲状況

震災年に放流された5年魚の河川捕獲数は、青森県の奥入瀬川、岩手県の安家川、田老川、津軽石川、片岸川、盛川、宮城県の気仙沼大川において、過去10年間で最も少なくなっています。昨年度、4年魚の減少が顕著だった河川、すなわち津波被害が甚大であったサケふ化場を有する河川では、例外なく5年魚の減少が顕著となっています（図4）。

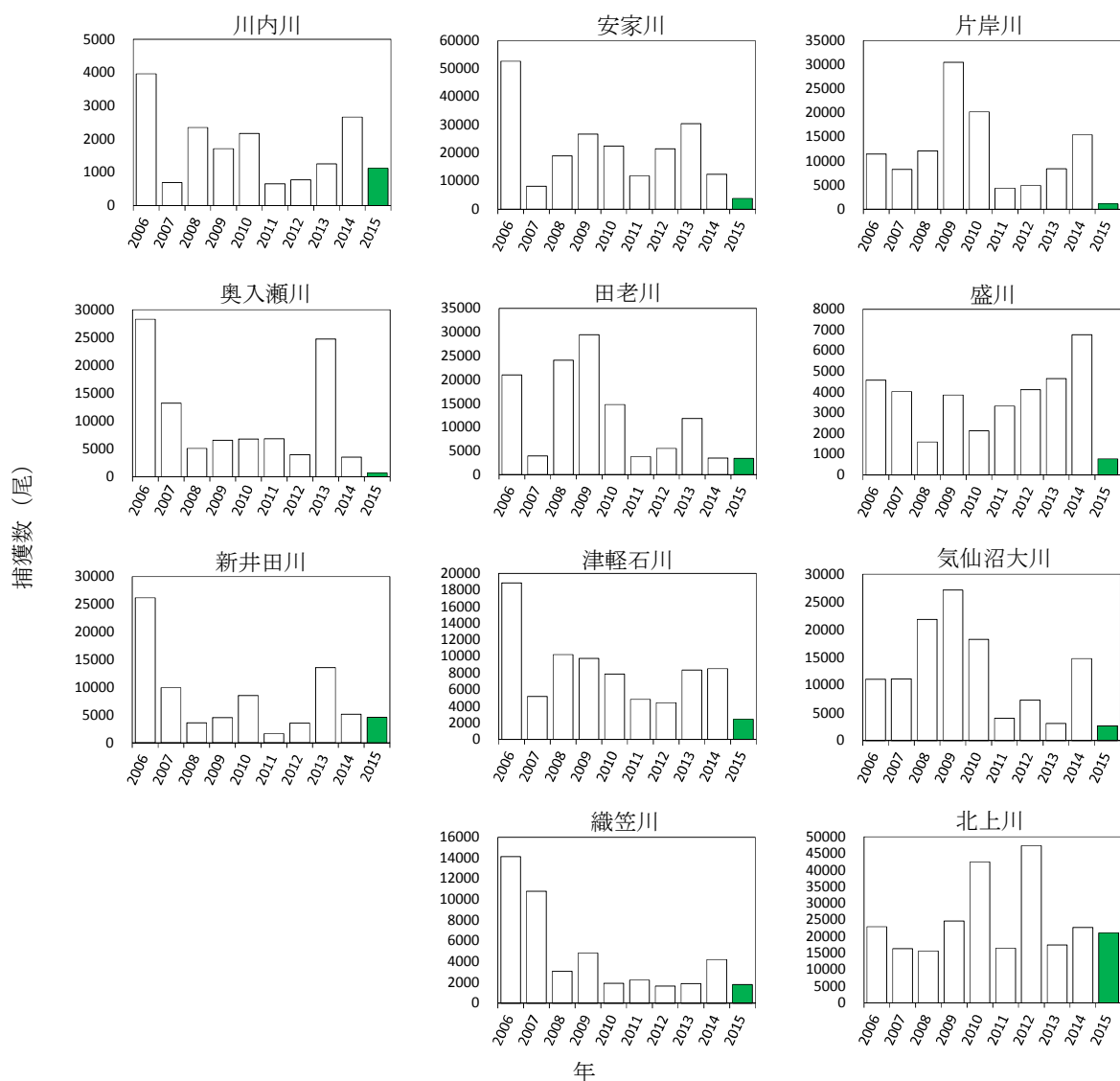


図4 5年魚の河川捕獲数の経年変化

## ・年齢別河川捕獲数

全ての年齢構成を累計した河川捕獲数（以下、累計河川捕獲数）を図5に示します。

累計河川捕獲数は、青森県の川内川では、4年魚の減少により、前年および過去10年間の平均値を下回っています。新井田川では、過去10年間で3番目に多い値となっています。一方、奥入瀬川では5年魚が少ないものの、3年魚の増加により、ほぼ例年並みとなっています。

岩手県の田老川、片岸川、盛川では5年魚が少ないものの、ほぼ前年並みですが、過去10年間の平均値を下回っています。4年魚が顕著に少ない織笠川、4年魚、5年魚ともに少ない津軽石川では、いずれも過去10年間で最も少なくなっています。一方、安家川では5年魚が少ないものの、4年魚の増加により、累計河川捕獲数は例年並みとなっています。

宮城県の気仙沼大川では、5年魚の減少により、前年および過去10年間の平均値を下回っています。北上川では、前年を上回るものの、平年を下回っています。

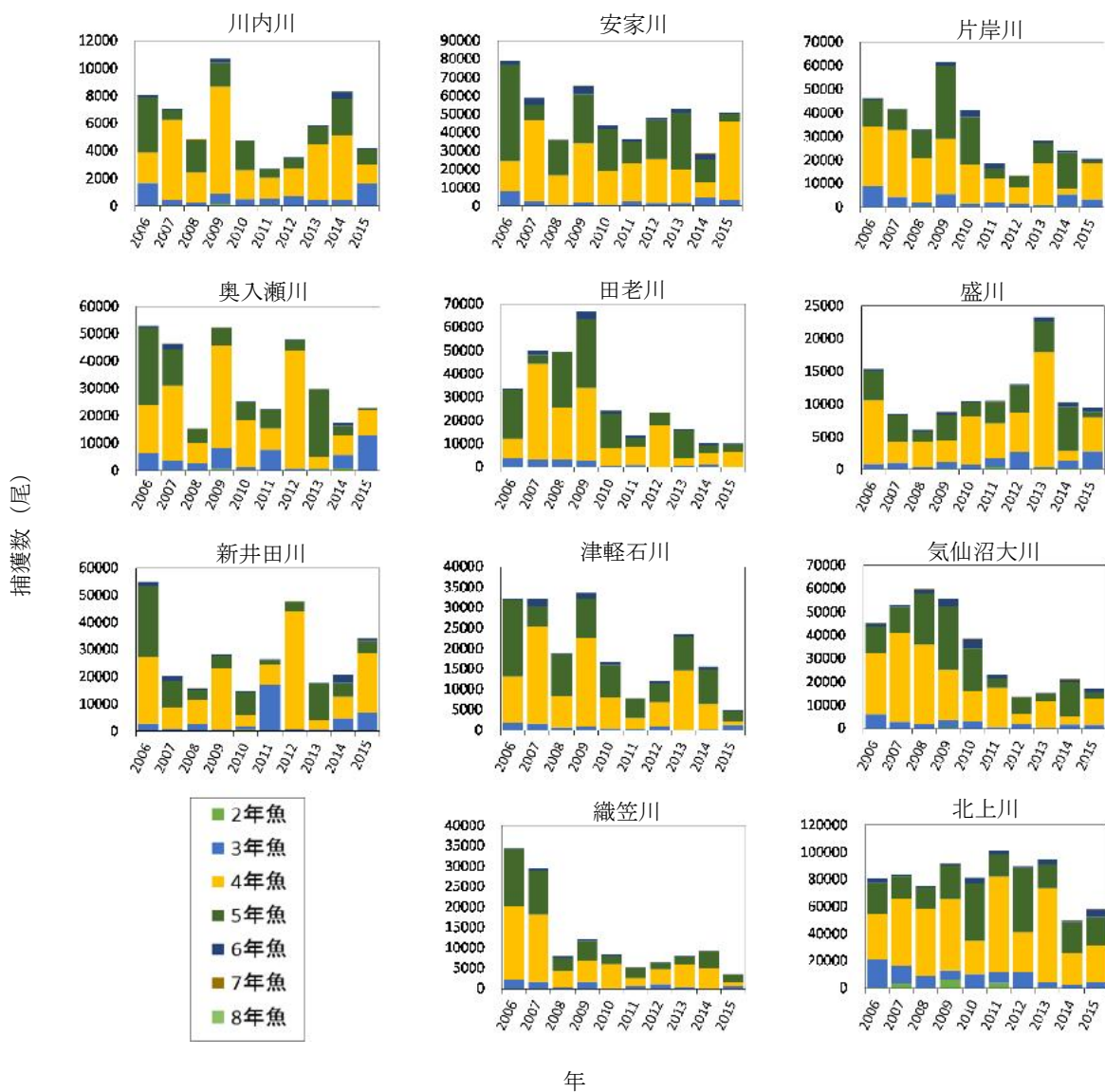


図5 年齢別の河川捕獲数の経年変化